

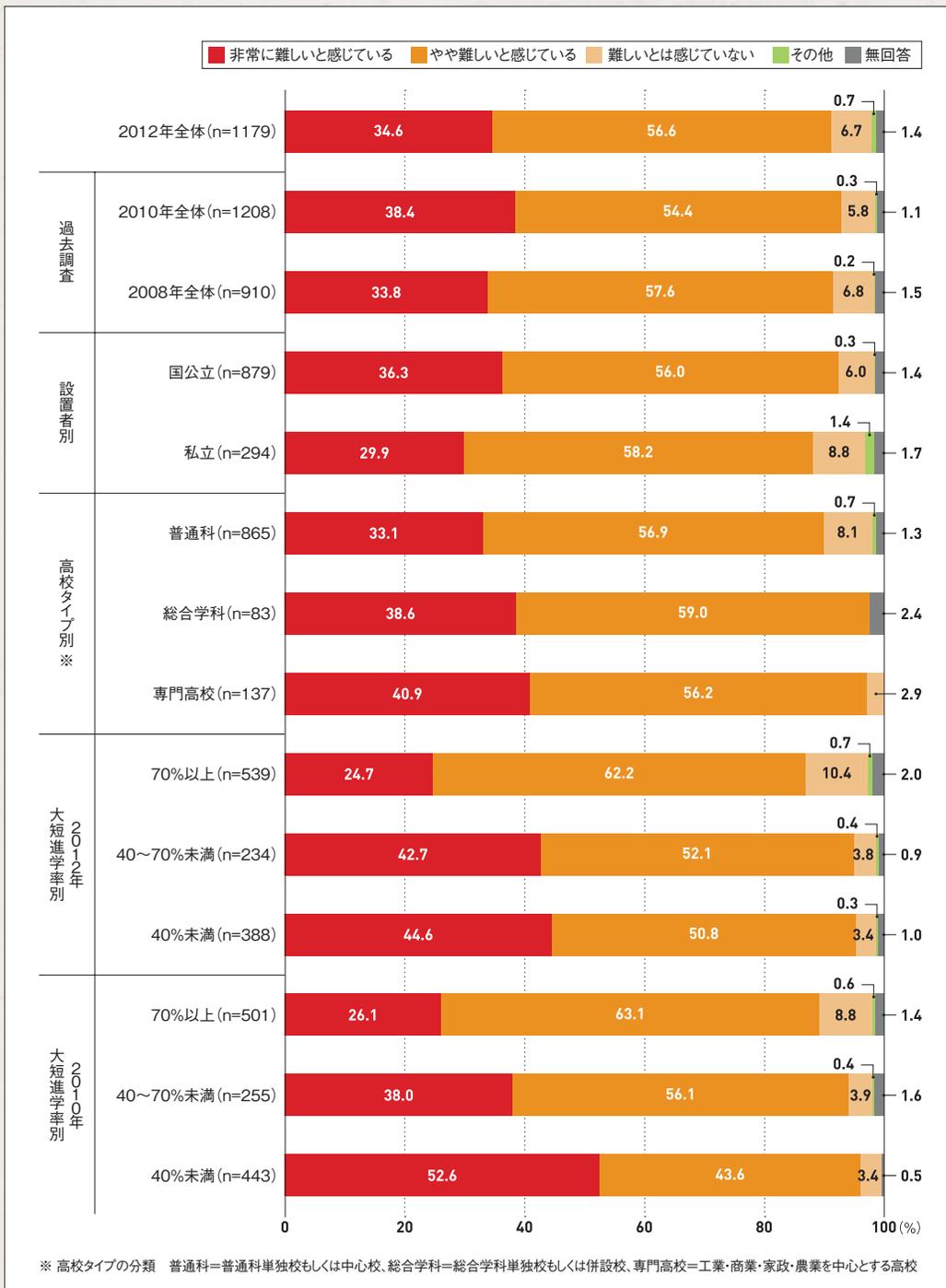
進路指導の困難

01

進路指導の困難度

「非常に難しい」35%、全体の9割以上が「難しい」と回答

図1 現在、進路指導を難しいと感じているか

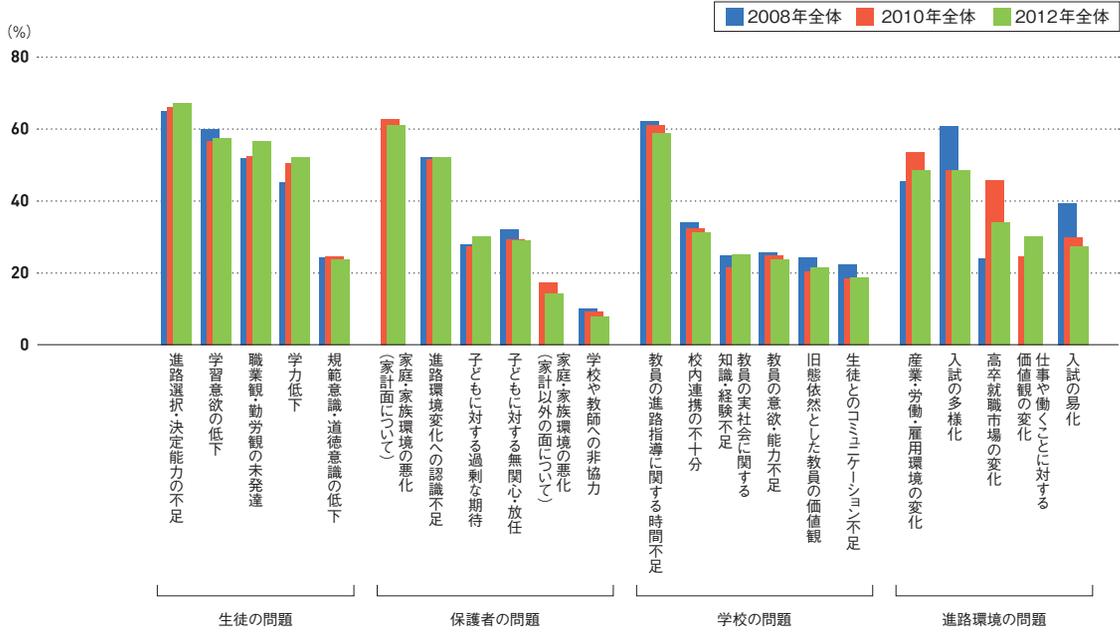


現在、進路指導を難しいと感じているかという質問に、進路指導主事を中心とする回答者の35%が「非常に難しい」と回答(図1)。前回38%からは減少したものの、「やや難しい」の57%と合わせると9割以上が進路指導を困難と感じている。進路指導に難しさを感じる割合は、08年以降高止まりの傾向といえそう。

**指導の難しさが増す
大短進学率中位の高校**

設置者別に見ると、「非常に難しい」と感じる割合は、私立よりも国公立、高校タイプ別では普通科よりも総合学科や専門高校で多く、大短進学率別では進学率が低い高校ほど「非常に難しい」が多い。ただし、前回に比べ大短進学率「40~70%未満」の高校では「非常に難しい」が増加傾向。反対に「40%未満」の高校は前回(53%)から10ポイント近く減少した。

図2 難しさの要因 ※



	(1)	(4)	(5)	(7)	(18)	(2)	(6)	(12)	(14)	(21)	(22)	(3)	(11)	(16)	(17)	(19)	(20)	(8)	(9)	(10)	(13)	(15)	
2012年全体 (n=1075)	67.3	57.6	56.8	52.1	23.7	61.0	52.2	30.2	29.1	14.4	7.9	58.8	31.2	25.3	23.9	21.7	18.9	48.7	48.6	34.2	30.1	27.3	
過去調査																							
2010年全体 (n=1121)	66.2	56.8	52.4	50.5	24.7	62.7	51.7	27.5	29.4	17.5	9.3	61.0	32.5	21.7	24.8	20.5	18.6	53.7	48.7	45.9	24.7	29.9	
2008年全体 (n=832)	65.0	60.0	51.9	45.3	24.4	-	52.2	27.9	32.2	-	10.3	62.1	34.0	25.0	25.8	24.3	22.4	45.6	60.8	24.0	-	39.5	
設置者別																							
国公立 (n=811)	67.6	58.6	58.8	52.8	25.0	64.7	53.0	28.2	31.6	15.4	7.9	59.9	30.1	25.2	22.6	21.3	19.7	51.3	47.1	38.5	31.1	28.2	
私立 (n=259)	66.8	54.8	51.0	50.6	19.7	49.8	50.6	36.7	21.6	11.2	8.1	55.6	35.1	25.9	28.2	23.2	15.8	40.5	53.7	20.8	27.8	25.1	
高校タイプ別																							
普通科 (n=778)	67.7	57.7	56.0	50.6	21.6	59.3	50.5	31.0	26.5	12.7	7.3	59.8	30.8	23.8	25.2	22.1	16.6	45.8	55.0	26.0	29.7	27.4	
総合学科 (n=81)	70.4	60.5	53.1	55.6	29.6	75.3	58.0	22.2	44.4	17.3	4.9	59.3	37.0	30.9	25.9	16.0	27.2	53.1	40.7	53.1	30.9	34.6	
専門高校 (n=133)	63.2	55.6	63.9	56.4	27.8	60.9	59.4	31.6	30.8	18.8	10.5	52.6	29.3	33.1	18.0	24.1	25.6	63.9	24.8	66.9	30.1	18.8	
2012年大短進学率別																							
70%以上 (n=468)	65.8	51.7	48.3	43.8	15.6	46.2	50.0	41.2	16.5	7.7	6.8	62.6	33.8	22.4	26.1	24.8	15.0	41.2	63.2	9.2	26.1	26.1	
40~70%未満 (n=222)	71.6	65.8	58.1	54.5	19.4	77.5	54.1	18.9	34.2	14.4	7.2	63.1	32.4	25.2	31.1	25.2	23.4	48.6	55.0	43.2	33.8	38.3	
40%未満 (n=370)	67.6	61.6	66.5	62.7	36.2	70.5	54.6	23.2	41.9	23.0	10.0	51.6	27.8	28.4	16.5	15.9	20.5	58.1	27.6	60.8	33.0	23.2	
2010年大短進学率別																							
70%以上 (n=447)	66.0	56.2	41.2	43.6	15.2	45.6	49.2	42.5	15.0	10.5	8.1	62.4	37.1	21.5	25.1	23.0	15.2	41.8	62.0	11.4	23.0	28.9	
40~70%未満 (n=240)	72.1	65.0	51.7	50.4	28.3	70.4	53.3	21.7	34.2	20.8	9.2	64.6	38.3	18.8	30.4	23.8	21.3	52.9	54.6	54.2	24.2	42.5	
40%未満 (n=426)	63.8	53.1	64.1	57.7	32.4	76.3	53.3	15.3	42.0	22.8	10.6	57.0	24.4	23.7	21.4	15.7	20.7	66.7	31.2	77.9	26.5	23.9	

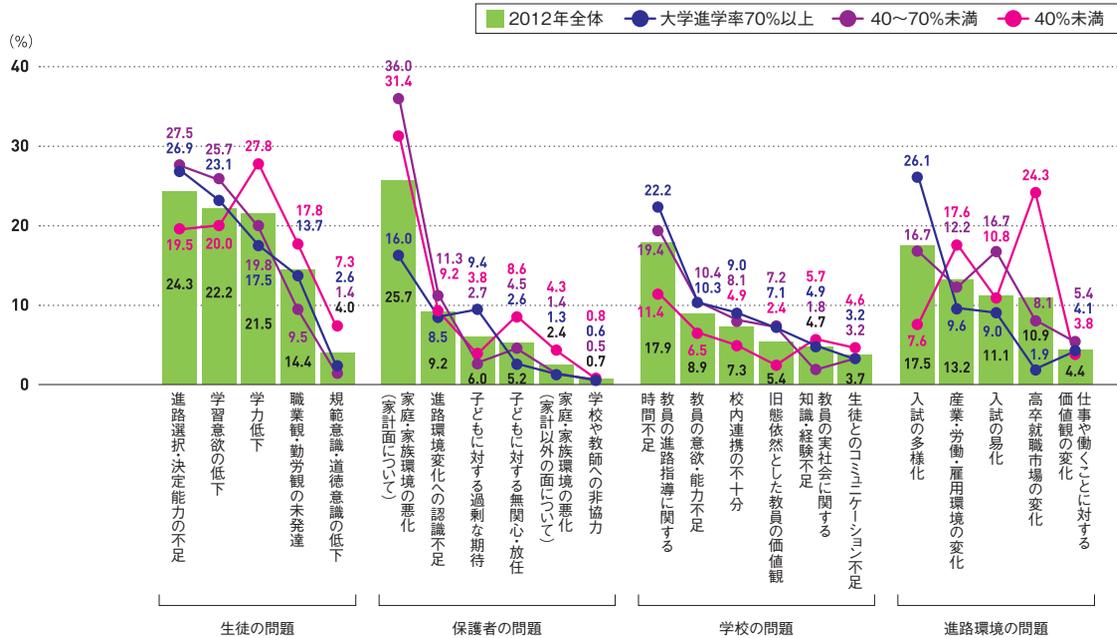
※ 図1で「非常に」あるいは「やや」難しいと感じていると回答した者のみ
[-]は該当項目なし (複数回答)

現在の進路指導を「非常に難しい・やや難しい」と回答した人にその要因をすべてあげてもらったところ、最多は【生徒】の「進路選択・決定能力の不足」67% (図2)。2位【保護者】「家庭・家族環境の悪化(家計面)」、3位【学校】「教員の進路指導に関する時間不足」。以下、【生徒】「学習意欲の低下」、【生徒】「職業観・勤労観の未発達」と続く。【生徒】が困難の要因と考える教師が多いことがわかる。

「教員の実社会に関する知識・経験不足」が増加

前回より増加したのは、【生徒】「職業観・勤労観の未発達」「学力低下」、【保護者】「子どもに対する過剰な期待」、【学校】「教員の実社会に関する知識・経験不足」など。反対に減少したのは、【進路環境】「産業・労働・雇用環境の変化」「高卒就職市場の変化」「入試の易化」など。前回と比べ、現実社会の労働・雇用環境や高卒就職市場が改善されたとは言えない。この厳しい状況が常態化したということだろうか。

図3 最も大きな難しさの要因 ※



調査項目	(順位)	2012年全体 (n=1075)	(1)	(11)	(14)	(16)	(21)	(22)	(5)	(12)	(13)	(15)	(17)	(20)	(6)	(8)	(9)	(10)	(18)
過去調査																			
2010年全体 (n=1121)		21.5	24.5	7.2	4.5	5.4	3.6	1.2	18.6	8.2	6.9	4.8	2.3	2.8	18.6	15.3	13.2	17.7	3.6
2008年全体 (n=832)		24.4	-	7.2	5.0	5.9	-	1.8	20.7	9.5	7.2	7.2	3.4	4.3	26.7	11.5	17.8	4.6	-
設置者別																			
国公立 (n=811)		23.7	27.6	9.2	5.2	4.8	2.7	0.9	19.1	9.2	6.2	4.4	4.2	3.9	17.3	14.1	11.2	11.8	4.1
私立 (n=259)		26.3	19.3	9.3	8.9	6.6	1.2	0.0	13.9	8.1	10.8	8.5	5.8	2.7	18.1	10.0	10.8	8.1	5.4
高校タイプ別																			
普通科 (n=778)		25.7	25.2	8.2	5.9	4.8	2.1	0.4	19.3	9.0	8.4	5.7	4.6	3.6	20.8	11.4	10.7	6.8	4.6
総合学科 (n=81)		24.7	37.0	9.9	4.9	3.7	4.9	0.0	17.3	13.6	3.7	6.2	3.7	6.2	14.8	16.0	16.0	11.1	3.7
専門高校 (n=133)		20.3	18.8	14.3	6.0	6.8	3.0	1.5	11.3	5.3	5.3	3.8	7.5	3.0	6.0	21.8	9.0	31.6	3.0
2012年大短進学率別																			
70%以上 (n=468)		26.9	16.0	8.5	9.4	2.6	1.3	0.6	22.2	10.3	9.0	7.1	4.9	3.2	26.1	9.6	9.0	1.9	4.1
40~70%未満 (n=222)		27.5	36.0	11.3	2.7	4.5	1.4	0.5	19.4	10.4	8.1	7.2	1.8	3.2	16.7	12.2	16.7	8.1	5.4
40%未満 (n=370)		19.5	31.4	9.2	3.8	8.6	4.3	0.8	11.4	6.5	4.9	2.4	5.7	4.6	7.6	17.6	10.8	24.3	3.8
2010年大短進学率別																			
70%以上 (n=447)		21.0	14.5	6.7	9.4	2.2	2.0	1.3	23.7	7.4	9.2	6.7	2.2	2.2	28.2	11.9	12.5	1.6	4.5
40~70%未満 (n=240)		22.1	26.7	9.6	2.5	4.6	4.2	2.5	18.3	10.4	7.1	4.2	2.9	1.7	20.8	13.3	21.3	13.8	2.5
40%未満 (n=426)		22.1	33.3	6.6	0.7	9.2	4.7	0.2	13.6	8.0	4.5	3.1	2.1	4.0	7.5	20.0	9.6	36.9	3.1

※ 図1で「非常に」あるいは「やや」難しいと感じていると回答した者のみ

「」は該当項目なし (3つまでの複数回答)

図3は進路指導を困難にしている全要因のうち、最も大きいと感じるものを3つまで選んでもらった結果だ。最多は「保護者」「家庭・家族環境の悪化(家計面)」26%。以下、「生徒」「進路選択・決定能力の不足」「学習意欲の低下」「学力低下」と続く。

進学率の違いで大きく異なる困難の要因

大短進学率別にみると、「70%以上」の高校では1位「進路選択・決定能力の不足」、2位は「入試の多様化」、以下「学習意欲の低下」「教員の進路指導に関する時間不足」と続く。

「40~70%未満」と「40%未満」の1位は「家庭・家族環境の悪化(家計面)」。「40~70%未満」では前回に比べ10ポイント近く増えており、学力・能力以外の問題として大きく立ち上がった。2位は「進路選択・決定能力の不足」、3位は「学習意欲の低下」。「40%未満」の2位は「学力低下」、3位は「高卒就職市場の変化」と、各層ごとに異なる課題を抱えている状況がうかがえる。

フリーコメント1 進路指導を困難にしているさまざまな要因 【大短進学率70%以上】

04

大短進学率別の実態

進路指導を困難にする生徒や保護者のさまざまな問題

■進路選択・決定能力の不足

- 低学年から体系的な指導はしているものの、外部からの情報過多の状況がかえって生徒の進路選択を難しくしているケースがある(北関東/普通)
- 答えや決定を求めてくる生徒(決断力不足)がいる一方で、受験直前になっても志望が見つからず探す努力もしていない生徒がいる(東海/普通)
- 自己の適性が見つけれず、進路先が定まらない生徒が増えている(九州・沖縄/普通)
- 自分が何をやりたいのか、何に向いているのかを考え、決定することができない。高3の夏をすぎても学部を決定できない(関西/普通)
- 高望み、文理選択が適切でないなどで実力と志望にギャップがある。また、急に高3の夏ごろ、進路を変える者もいる(南関東/普通)
- 低学年で進路をよく考えていなかったため、3年生でも決められない。あるいは行きたい大学はあるが親のことを考えてふみ切れない(東北/普通)
- 大学への進学を何の疑問もなく受け入れ、「大学に行くが、やりたいことが見つからない」という本末転倒な考えの生徒が多い(南関東/普通)

■入試の多様化

- 各大学がさまざまな入試を実施していて、また同じ大学入試でも科目が違ったりにして、すべてを理解することが非常に困難(北海道/普通)
- センター試験の変更、理数先取り、あるいはAOなど推薦の多様化、複雑化で混沌となり、みんなが手探りとなっている(北関東/普通)

- 入試が多様化して、生徒が入試に振り回されている(関西/普通)
- 国公立大学は入試に課す科目数が多く現行のカリキュラムでは対応が困難。私大は入試方法が多様化しすぎており対応しきれない(東海/普通)
- AO、自己推薦、公募、指定校推薦など、一般入試の前に試験が多すぎて、教師も生徒も振り回される(九州・沖縄/普通)

■学習意欲の低下

- 大学に入りやすくなり、今までのように大学入試を突破するために頑張るといったモチベーションの減退(北海道/普通)
- 進学というハードルを自分で越えようとしない。学習において指示待ち。宿題のみ消化、という状態(北海道/普通)
- 高校にも推薦で入ってくる生徒が多く、「本当に勉強した」という経験をした生徒が少ない。家庭学習の習慣がない生徒が多い(南関東/普通)
- 与えられることに慣れてしまい、いつも受け身になっている。当事者として行動しよう(勉学を含めて)という意識がない(関西/普通)
- 知的好奇心の低下を感じる。何ごともおもしろがれる感性を育てていない。とにかく受動的(中国/普通)

■教員の進路指導に関する時間不足

- 教員に求められる業務が年を追うごとに肥大化している感があり、やってもやってもきりが無い仕事に忙殺されている(北関東/普通)
- 学校全体が非常に忙しく、各教員の仕事も増える一方である。各生徒とじっくり時間をかけて話す時間の少なさを感

- じる(南関東/普通)
- 学校現場の多忙さは極限まで来ている。生徒に(個人面談等に)割ける時間がない(中国/普通)
- 刻々と変化する大学入試状況に対して担当が詳細な情報をつかみにくくなっている。公務の多忙化も一因(南関東/普通)

■学力低下

- 中学の学力が定着していない中、大学入試で求められる学力まで引き上げるのは限られた時間の中では困難(南関東/普通)
- ゆとり教育の影響で、学力の二極化が深刻である。中でも好奇心の低下が著しく、授業展開を難しくしている(東北/普通)
- 大学入試レベルの学力まで達することができない生徒が多い(中国/普通)
- 入学後しばらくは中学の総復習が必要の上、家庭学習(予習)のしかたを知らない(甲信越/普通)
- 学びに対する姿勢が確立されていない。従って、高校の学習内容が修得できない生徒が増加している(北関東/普通)

■家庭・家族環境の悪化(家計面)

- 経済的理由から、四年制大学へ進学できる実力でありながら短大を選択する生徒がいる。高校の授業料未納で進学以前の問題がある(南関東/普通)
- 保護者の年収を考慮し、地元の大学へ進学希望の生徒が多い。特に首都圏難関私大進学者の減少(東海/普通)
- 収入が激減、何らかの奨学金を受けないと進学できない生徒が増えた(関西/普通)

「大短進学率70%以上」の高校「選べない生徒」の背後に情報過多の社会がある

「進路指導を困難にしている最大の要因」を選択肢から選んでもらう(12p)のと同時に、内容を具体的に記入してもらった。ここでは、そのフリーコメントを大短進学率別に見ていく。

まず「大短進学率70%以上」の高校について(フリーコメント1)。最大要因のトップである「進路選択・決定能力の不足」にまつわるコメントには、「将来のことを考えられない、決められない」「自分が何をしたいのかわからない」「自分から調べない」といった生徒が増えていることを示すものが多い。「情報が多すぎて選べない」という時代背景を指摘する声も少なくない。2位「入試の多様化」については、データ上は前回よりやや減少し(12p)、困難が緩和したようにも見えるが、コメントからは相変わらず厳しさが伝わってくる。各大学入試の多様化、複雑化はますます進み、「生徒も教師も振り回されている」といった意見が多い。生徒のモチベーション低下の元凶という指摘もある。

フリーコメント2 進路指導を困難にしているさまざまな要因 【大短進学率40~70%未満】

■家庭・家族環境の悪化(家計面)

- 経済的理由により、進学をあきらめたり、奨学金を利用して進学することが非常に多くなっている(北海道/普通)
- 進学先の決定後に、就職に変更せざるを得ない生徒が複数出てくる(北海道/普通)
- 経済的問題について生徒と保護者間で確認できていないことがあり、推薦で合格しているながら辞退するケースがある(北海道/普通)
- 家計面で進学が困難な生徒が増加し、かといって高卒求人は減少の一途をたどっている状況で、生徒に妥協させるしかない進路選択になっている(東海/総合)
- 親子での会話不足や親の面目のためか、家庭事情が子どもに伝わっておらず、上級学校に進もうとして、資金がないことにより進学をあきらめる生徒もいる(関西/普通)
- 経済的な面から、自宅から通える大学、専門学校、就職先が、進路を決める第一条件になっている生徒が多い(関西/総合)
- 生徒は進学を希望しているが、家計が苦しく就職に変更したり、大学から短大または専門学校へ変更したり、進学できる学校に変更して自分の行きたい学校へ行けない。合格したのにあきらめる場合もある(北関東/普通)

■進路選択・決定能力の不足

- 3年夏~秋になっても、進路の方向性が定まらず、生徒に振り回されたり、生徒にこちらから声掛けをしないと動かない(南関東/普通)
- 1年次から、さまざまな形でガイダンス、面談などを重ね、自分や進路について考えさせているはずだが、自分のことと受け取れず、3年後半になってもコロコロ進路を変える生徒がいる(南関東/普通)
- さまざまな適性検査を行ってもなかなか自分のやりたいことや興味のもてるが決まらず、進路について動き出せない(甲信越/普通)

- 自分のこととして考えられない。他人任せ(東海/専門)
- さまざまな講演や指導を通じて考える機会は与えられているが、自分のこととしてとらえていないケースや、まだ先のことでと考えている(九州・沖縄/普通)

■学習意欲の低下

- 家庭学習の習慣が身につけておらず、高校の授業に対応できていない。各教科、HRなどで、学習のしかたについて繰り返し指導をしなければならない(北関東/普通)
- 推薦入試に安易に流れてしまい、学習する意欲をもたない生徒が年々増加している(東海/普通)
- 学力の二極化。下位層の意欲が向上しない(九州・沖縄/普通)
- 学習せずに合格できる方法のみを考える生徒が多く、3年生になっても受験の雰囲気にならない(北海道/普通)
- 家庭学習の不足が著しく、学力の定着が不十分になっている(東海/総合)
- 学習習慣がない。宿題はやるが、自立学習ができない生徒が多い(南関東/普通)

■学力低下

- 中学校の学習内容が、身につけていない(東北/普通)
- 学習習慣の欠如のため、基礎学力が定着しない点(南関東/普通)
- 入学時の基礎学力低下の生徒が増加。上位の生徒を引き上げるのに十分な時間がとれない(関西/普通)
- 学力の低下がすべてにおいて影響しているため、進路選択の指導など、職場観、労働観の指導しても生徒自身のものにならない(東北/総合)
- 希望進路に学力が到達しない。なのに家庭学習の不足、講習・模試参加率の低下が

見られる(北海道/普通)

■教員の進路指導に関する時間不足

- 進学希望者のほとんどがAO、推薦希望のため、小論文指導や面接指導で膨大な時間を取られる。その上、日常の複雑な業務も変わらず、きめ細かな指導がなかなかできない(南関東/普通)
- あらゆることが教員に課せられており、教科指導のほか生徒指導、保護者の対応、部活動、研修等々時間がなすすぎる(東海/総合)
- 進学、公務員、就職と多岐にわたる指導の多様化により、教員に疲労感が大きい(東北/総合)
- 雑務が多く本来やるべき仕事(生徒に対する直接的な時間不足)が不十分(関西/普通)

■入試の多様化

- AO入試、推薦入試が早期にあるため、生徒がそれに合わせて勉強する教科数を減らし、志望校のレベルも下げ、合格後は半年近く勉強しなくなり、他生徒への悪影響も増加している(関西/普通)
- 各大学、多様な入試パターンで情報収集が大変であり、対応がとて難しい(東海/総合)
- 毎年の入試方法の変化に教職員はもちろん生徒、保護者もついていけない(九州・沖縄/普通)

■入試の易化

- まったく学習しない卒業が心配な生徒が、合格通知を早々に手にし、さらにだらける(北陸/普通)
- 上級学校への進学は望めばかなう状況であるから、学校の成績を伸ばそうとする気持ちが薄れている(東北/総合)
- 安易に指定校、AOで受験し合格してしまう。しかし学力は、大学入学レベルとなっていないものが多数。入学後の退学などの心配(甲信越/普通)

【大短進学率40~70%未満】の高校
家の経済事情で
進路の選択肢が減少

「大短進学率40~70%未満」の高校のコメントも同様に見てみよう(フリーコメント2)。難しさの要因のトップである「家庭・家族環境の悪化(家計面)」に関するコメントで多いのは、家庭の経済的事情で大学をあきらめたり、地元進学に変更したり、就職志望に変えざるをえなかったりという具合に進路の選択肢が狭まっている様子を示すもの。また、経済的事情について親子のコミュニケーションがとれておらず、土壇場になって進学を断念するようなケースもあることを示すコメントも少なくない。

2位「進路選択・決定能力の不足」についてのコメントでは、「大短進学率70%以上」の高校と同様、生徒の自主性や主体性の欠如を嘆くものが多く、さまざまな取り組みをしてもなかなかその効果が表れず、教員が苦勞している様子も伝わってくる。

3位「学習意欲の低下」については、大学が入りやすくなったことや、高校も推薦で入学してくる生徒が多いことなどの影響で、家庭学習の習慣がない生徒が増えたことを指摘する声が多い。

フリーコメント3 進路指導を困難にしているさまざまな要因 【大短進学率40%未満】

■家庭・家族環境の悪化(家計面)

- 子ども自身が進学を望んでいても、金銭的理由により、就職せざるを得ない。しかし、高卒では就けない職種も多いのが現状(東北/普通)
- 一人親の家庭が非常に多く、これが家計の負担にもつながる。進学をあきらめる生徒の理由の大部分を占める(北海道/その他)
- 経済的に進学困難な家庭が多く、就職志望者が多いが、求人は減少しており、就職することが難しい(東海/普通)
- 経済的に苦境にある家庭が多くなってきた。保護者が日々の仕事(生活)に追われ、子どもとかわる時間がほとんどない家庭が目立ってきた(関西/総合)
- 学費が支払えないために進学できない家庭が増加している(四国/専門)
- 就職の内定をいただいた後、卒業までに普通運転免許を取得するために自動車教習所へ通うことができない生徒が非常に多くなってきている(南関東/普通)

■学力低下

- 入学してから小中の内容ができていなく苦しんでいる→基礎基本の反復(北海道/普通)
- 基礎学力不足を理由として就職の不採用が通知されるケースが多々ある(南関東/専門)
- 基礎学力の低下が著しく、進学、就職ともに対応しづらい。意欲の低さもあり、向上への姿勢を作りづらい。“その場さえしのげれば”との意識が強い生徒が多い(甲信越/総合)
- 就職選考のペーパーテストがクリアできない。基礎的な学力がない(関西/普通)
- 低学力層の占める割合が大きくなっており、学力の二極化が深刻化。同一カリキュラムで授業を行うことは相当に難しい。習熟度別授業にも限界がある(九州・沖縄/普通)
- 義務教育レベルの学力が身につけていないので、それをつけさせねばならない。学習習慣

慣も身につけさせねばならない(東海/専門)
 ○中学校までの学力が定着しておらず、高校の学習についていけない(東海/普通)

■高卒就職市場の変化

- 求人数が減少し競争が激化。そのため学科技験を課す企業が増加(北海道/その他)
- 企業の採用が高卒より短大卒や大卒へシフトしている傾向があり、新規開拓はなかなか難しい(東海/総合)
- 以前には高卒の就職先であった販売職などに専門卒でなければ入れなくなっている(南関東/普通)
- 製造、販売などの求人数が減り、高校生が受験できる企業が限られているので、以前には考えられないほどの高倍率になってしまい、何社受けても内定まで届かない生徒が増えている(南関東/普通)
- 高卒求人数が半減するとともに、高校への求人のしかたが、指定校制から公募に変化していること(東海/専門)
- ほとんどが製造業であり、多くの職種から選ぶ余地がない。また、多くの企業で機械化が進み、工業系の生徒を求人したいという意向をもつ企業が、大幅に増えている(九州・沖縄/専門)

■学習意欲の低下

- 目的、目標を設定できず学習によって自己を改善しようという意識が低い。その結果学力も低下している(東北/普通)
- 集中して学習に取り組む習慣のない生徒が多くなってきている(北関東/専門)
- 家庭学習の習慣がついていないため、学力の定着に結びつかないのが現状であり、また学習内容や方法がわからないとあきらめてしまい学力が低下する一方(東北/普通)
- 就職試験での学力検査(一般教養、SPIなど)の結果が重視されるようになったため、以

前よりも、学習経験を積む必要性を感じている(東北/普通)

■進路選択・決定能力の不足

- 職種、業種を決められず、親の考えで就職試験を受ける。進学先(学部学科)を決める際、狭い興味、友達、自宅からの距離などで決めてしまう(四国/総合)
- 生徒自身が何をしたいのかわかっていない。したいことがわからないので進路決定が遅れる。また、積極性に欠ける(北陸/普通)
- 勤労意欲はあるが、自身の将来像が描けないため、就職先の選択ができない(東海/専門)
- 生徒の自分以外への依存度が高く、ほかのせいにして自分から動こうとせず自分を変えようとしな(東北/普通)

■職業観・勤労観の未発達

- 勉強したくないから就職、という安易な考えや家庭の経済状況でやむなく就職という場合、働くことに対する覚悟ができていない(南関東/普通)
- アルバイト先を選ぶような感覚で安易に選択するものがある。就職後もちょっとした困難ですぐに辞めてしまう(北海道/その他)
- 働くことの意義、社会人としての責務にまったく関心がなく、就業に関して完全に人任せ(東北/普通)
- 就職・進学問わず意識が低い。自分のこのように感じられない生徒も多数(甲信越/普通)

■産業・労働・雇用環境の変化

- 正社員の求人票が激減しており、日給月給、非正規雇用など、アルバイトのような求人しかない(北海道/普通)
- 高卒就職のところで就職難の大学生の流入でバランスが崩れている(北関東/普通)
- 指定校求人も高倍率になった(関西/普通)

**【大短進学率40%未満】の高校
 進学を断念しても
 就職も容易ではない状況**

「大短進学率40%未満」の高校においても、「家庭・家族環境の悪化(家計面)」がトップとなった。それに関するコメントを見ると(フリーコメント3)、やはり進学志望から就職志望への変更など、進路の選択肢が狭まっている状況が見受けられる。ただし、3位「高卒就職市場の変化」のコメントのなかでも多くの回答者が指摘しているように、高卒就職市場は全般的に競争が激しくなっている。進学から就職に変更したとしても、すんなり決まるわけではなく、生徒も教員も頭を悩ませているようだ。また、たとえ就職が内定しても自動車免許の取得費用に困る生徒が増えているなど、生徒の家計のひっ迫している様子を伝えるコメントは多い。

2位「学力低下」についてのコメントでは、「基礎学力不足」を指摘する声が多い。義務教育レベルに届いていない生徒がおり、就職試験をパスするのが難しいところ、そのレベルでも「簡単に受かる大学」があるため、矛盾を感じる教員も多いようだ。生徒も同様で、そういう状況が「学習意欲の低下」を招く一因ともいえる。